



日本財団海上保安研究基金

令和5年度事業報告



公益財団法人海上保安協会

グランドデザインに基づく事業の実施

1 研究活動の推進

- (1) 既存リソース（大学校教官による研究） 5件
- (2) 新規リソース（主任研究員による研究） 2件

2 国際力を有する研究員育成（制度検討）

3 国際人材の確保・養成

- (1) 大学校長が必要と認める事業
「USCGAとの相互留学制度構築に向けた現地調査」
海上保安大学校国際業務課程研修生2名を米国に派遣、USCGAへの短期留学を実施（12月～令和6年2月）
- (2) 従来からの継続事業
 - ① 大学校
学生国際会議（6月）、海外研修（8月）、練習船こじまによる国際交流（4月～8月）、
国際法模擬裁判大会への参加（7月）、国際情勢等に関する講演会（12月、令和6年1月）
 - ② 学校
英語スピーチコンテスト（9月、令和6年2月）、英会話研修（5月～9月、11月～令和6年3月）

4 学術・研究国際連携ネットワークの拠点化

- (1) 米国（USCGA）
- (2) 台湾（中央警察大学）

5 研究インフラ等の強化

- (1) 研究基盤の強化
 - ① 歴史資料の電子化
海上保安大学校が保有する歴史的価値の高い資料の電子化に向け、有識者会議設置のための外部有識者を選定
 - ② 研究に必要な資料の充実化
中国研究に必要なデータベース（CNKI：中国学術文献オンラインサービス）を選定
- (2) ホームページの整備
研究活動の紹介、研究成果など、情報発信の手法を検討